

2025年度日系社会研修（多文化共生推進／日系協力型） 日系サポーター コース概要

NO	6
所管センター	横浜
分野	教育
研修コース名（日）	日本語教育と外国人支援団体の取り組み
受入人数	1
受入時期	上半期
来日日	2025年7月13日（日）
帰国日	2026年3月21日（木）
提案団体（日）	特定非営利活動法人ABCジャパン
提案団体 ウェブサイトアドレス	https://www.abcjapan.org/
研修員必要資格	日本語教師の経験のある方、あるいは大学で日本語教育について学んでいて、将来日本語教師を目指している方
研修員に必要な実務経験年数	不問
日本語能力（選択） ※日本語能力試験認定の目安参照	N3
ポルトガル語 スペイン語能力	ポルトガル語（母語）
研修目標	研修員が、日本の多文化共生の現状を理解して課題解決に向けた知見を習得し、日本語指導力を向上させることができる。
期待される成果 （習得する技術）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多文化共生のまち鶴見に数多く暮らす日系人や様々な国から移住してきた家族が、どのような課題を抱えながら、社会において生活しているのかを地域での活動を通して肌で感じ理解する。 2. 公立小中学校や高校、フリースクールに通う中南米出身者や外国につながる子どもたちが直面する言葉や文化の壁、あるいは学習の困難さなどを理解し、よりわかりやすく効果的な日本語指導法を身につける。 3. ABCジャパンのプログラムへの補助業務を行う中で、日本のNPO法人の運営方法や経理、情報発信、イベント等の企画・実施のノウハウ、行政や他団体、学校等との連携の仕方などを学ぶ。

<p>研修計画（内容）</p>	<p>研修計画（内容）： 1. 講義（内容）：在日日系人社会、日本の多文化共生政策、当団体の活動、外国につながる子どもの教育、日本の教育システム、外国人市民への相談対応、日本語指導法の聴講等 2. 実習：フリースクール、小学校内放課後教室、中学・高校生対象放課後自習室、大人向けの日本語教室、日系人子弟対象の継承ポルトガル語教室等 3. 見学：公立の小中学校、高校、専門学校、国際交流ラウンジ、区役所・市役所、教育委員会、領事館、大使館等 4. 活動報告：研修で習得した事柄について報告会を実施</p>
<p>研修実施の背景／日本国内の中南米出身者のコミュニティにおける現状、多文化共生等課題解決を推進するにあたっての問題・現状等</p>	<p>当該団体の活動拠点である横浜市鶴見区は、80年代後半から増加した南米出身の日系人、近年多くみられる中国、フィリピン等の移住者といった多様な出自を持つ人々が暮らす多文化の町である。コロナ終息後は、新規移住者が増えており、今後ますます外国出身者の増加が予想される。</p> <p>中南米出身者の多くは非正規雇用に従事しており、社会情勢や企業の都合等により不安定になりがちな状況にある。就労や生活上のトラブルが発生したときに相談できる場所の確保と母語による情報提供は非常に重要である。また、安定した雇用のため、さらに市民としての社会福祉を十分に活用するために必要な日本語能力の育成、キャリアアップの付与の充実を図る必要がある。</p> <p>また、子どもたちの言葉と教育の問題も深刻である。鶴見区では多くの子どもは公立校に通い、学校内で学習支援を受けているケースもあるが、日本語が完全に習得できていない場合や、保護者が日本語を理解できない場合など困難な状態に置かれるときも多い。学校外においても、学習支援、学校の生活上の問題や進学に関する相談など、保護者を含めた情報提供と相談サービスが必要とされる。</p> <p>多文化共生への取り組みにおいては、外国人市民への支援と共に日本人の意識改革が重要になる。外国人市民とともに暮らすコミュニティとしての歴史と経験をもつ鶴見では、その地域的特性の利点を最大限に生かす多文化理解教育や国際交流イベントを日本人と外国人とともに参加できる形で実施しており、外国人と日本人が、文化の壁を取り払い、互いを知る機会を作ること、顔の見える関係を構築していくことが、多文化共生社会づくりには欠かせない要素である。</p>
<p>本研修実施の意義 応募者への裨益効果</p>	<p>本研修において、研修員はフリースクールや放課後教室で、初期日本語指導や学習支援を行う予定である。言葉や文化の壁などのさまざまな課題を抱えながら日本で生活している外国ルーツの子ども・若者をサポートする活動を通して、社会の実情を学び、言語力を生かしながら実際にコミュニティに貢献することができる。</p> <p>また、日本社会のシステムや学校教育、自治体、支援団体等の取り組みや日本の文化・慣習、日本語指導法等を学び、帰国後は、身につけたスキルやノウハウを自身の活動している団体や学校において活かすことが期待できる。</p>
<p>応募希望者への特記事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来日経験のない方が望ましい。 ・子どもが好きで社会活動に興味関心のある方。